

## 地区研究会報告

### 関東地区研究会報告

牧野 修也（東洋大学大学院）

1998年11月7日、早稲田大学人間総合研究センターで、関東地区研究会が行われた。報告は、堤マサエ先生（山梨県立女子短期大学）の『家族意識の変化と「家」の継承－25年間の反復調査分析－』と池岡義孝先生（早稲田大学）の『戦後日本における家族社会学の展開』の二つであった。

堤報告は、1966年～1997年の間に、山梨県勝沼町を対象として行われた調査から、農村直系制家族の持続と変容を、家族意識の変化を通して明らかにしようとするものであり、長期にわたる調査研究によって捉えられた時間の経過に伴う家族意識の変容の仕方が、報告された。多くの資料に基づく報告の詳細については、字数の都合上触れることができないが、家族意識が、個人や家族をとりまく諸条件に大きく影響される点については、特に、関心を持った。フロアからの質問としては、対象の選択の問題等が挙げられた。

池岡報告は、家族社会学の知識社会学的研究という観点から行われ、これまでの日本の家族社会学研究のレビューが行われ、これまで「問題」にしてきた事としてこなかった事を明らかにしていった。その上で、これまで取り上げなかったことや「捨てて」きたことを再検討する必要性を述べ、「主観的家族論」（報告者は「構築主義的な家族研究」にすべきとしていた）などのアメリカの家族研究の動向とその導入状況に触れて、全体的に捉えるアプローチの必要性を論じた。そして、このような知識社会学的研究の重要性についても触れられた。

(E-mail:ZXE07546@nifty.ne.jp)